

授業や活動を通して見えてきたこと

社会福祉学部社会福祉学科 2 年 西村 俊亮

活動先；NPO 法人 プレママクラブ

クラス：松下 典子 先生

私はこの 1 年、松下クラスでサービスマーケティングや NPO 法人について学んできた。その学んできたことや気づいたこと、考えたことについて述べて行きたいと思う。

始めに私は松下ゼミで学習するまで NPO 法人やサービスマーケティングについてあまり考えたこともなく、知る機会もなかった。しかし、このゼミで学んでいく中で NPO 法人は非営利組織というだけではなく様々な役割を果たしているものだとわかった。具体的には授業の中で VTR を見る機会がありその内容は行政や民間が手を出さないゴーストタウンの空き家を買取り、リフォームして新しくその地域に移住する地域住民に格安で提供するもので、一般の民間企業ではリスクが大きくまた利益も少ないためこのような空家をリフォームして住民に格安で提供することはできないが、NPO 法人なら地域活性化として行政の力を借りて市民や、社会の利益になるサービスを提供することができる。このような事例の VTR を見て私は NPO 法人とは行政が気づかず、一般の営利組織では手が出せないような住人のニーズや社会の課題などを受けサービスを提供する組織だと自分の中で考えた。人によって NPO 法人の捉え方は違うが私は上記であげたように捉えている。

このような考えを持ち、私はサービスマーケティングに取り組んだ。私がサービスマーケティングで活動した「NPO 法人プレママクラブ」はいくつもの施設がありその中の学童保育所「みんなのき」で活動することになった。活動前に自分たちで考えた企画内容を説明するため事前訪問に伺った。その時、職員の方が私たちの知りたいことや学びたいことは何か質問され、私たちは「地域とこのプレママクラブみんなのきとのつながりについて知りたい、学びたい」と答えたが職員の方がどうやって調べるかといわれ私たちは黙ってしまった。そうしたら職員の方が子どもたちに聞くのは難しいが親御さんに聞くのはどうかと提案されて私たちはプレママクラブと地域のつながりを親御さんに聞くことにした。しかし、親御さんと会うのは迎えるあいだの数分でしかなく、そのあいだに聞くのは難しいということになりアンケートを自分たちで作成し迎えに来た親御さんに渡して書いてきてもらうということになった。

事前に地域とのつながりをどのように知り、学んでいくのか訪問する前にもっと方法や内容を深めておけばより充実した企画がたてることができたと思う。

実際に活動してみて初日は、上手く子どもたちと話せるのか、失敗するのではないかと

不安だったが子どもたちの方から話してくれてくれることが多く、当初の不安はなくなった。子どもたちの主流の遊びは基本的に外で野球やサッカーを行なっていたのでそれにまぎり遊んだ。初日は子どもたちと慣れることを目的としたため自分たちの企画は行わなかったが、二日目から自分たちで企画した遊びなどを実行した。とくに私が印象に残っているのは外での水遊びである。この企画は私たちの考えたものではなく職員の方が水遊びをしたらどうかと提案されて盛り込んだ企画である。子どもたちには事前に水遊びをすることを連絡で伝えてもらい、水着やぬれてもいい服をもってきてもらった。水遊びの時間が始まり、職員の方に用意してもらった水風船を子どもたちに渡してあそんでもらった。その中で職員の方が子どもたちと一緒に全力で楽しんでいる姿をみて私は自分ももっと楽しみたいと子どもたちも遠慮してしまうのではないかと気づき職員の方を見習い子どもたちと一緒に水風船や水鉄砲を使い遊んだ。その日の反省会で水遊びでの感想を話されて職員の方が重要だと言われていたのが子どもたちと一緒に遊ぶだけではなく子どもに戻ったように遊ぶことが重要だと言われ、実際に子どもたちと遊んでいて子どもの目線に立つためにも自分も子どもと一緒に楽しむことが必要だと水遊びの際に気づき、職員の方に学んだ。

そして活動が終わり、活動期間中に親御さんにアンケートを書いてもらったものを集計してみると「プレマクラブみんなのきのサービスに満足していますか？」という問いには半分以上の親御さんが満足と回答していて、「今後も利用していきたいか？」という問いには全員の親御さんが今後も利用して行きたいと回答している。その他の欄には仕事をする上でプレマクラブみんなのきは必要不可欠という親御さんもいる。

このようなアンケート内容から私たちは、男性も女性も子育てしながら働きたいという地域の中の親子のニーズを基に結びついていると考えた。また親御さんだけではなく子どもたちと一緒にいていくつか子どもたちにとっての「みんなのき」というものが見えてきた。いくつか上げると様々な年代の子と触れ合うことができるということ、家庭とは異なった学びができるといった地域とつながった日常的な社会性をはぐくんでいることがある。このように活動してみてもみんなの木と親子とつながりを知ることができた。

最後に、一年間クラスでの学習や実際にサービ斯拉ーニングをしてみて、見えてきたこととしてNPO法人は地域にはなくてはならないと感じたのはもちろん、その地域のニーズや時代の変化に対応し地域に根付いたサービスの提供をする施設がもっと必要だとわかった。また計画を立て、実行し、反省をするというプロセスをサービ斯拉ーニングで実行し、企画力、実行力などが身に付いたと思う。この一年間で学んだことを大切にして今後の学びや卒業後に生かしていきたいと思う。